

令和5年度

# 市民福祉常任委員会

## 行政視察報告書

【視察期間】 令和5年10月22日～25日

### 【視察先及び視察テーマ】

・兵庫県相生市

『子育て応援施策「11の鍵」』

・岡山県瀬戸内市

『すくすくチャイルドサポート事業について』

・岡山県矢掛町

『認知症見守り事業』・『空き家対策と古民家再生』

・広島県尾道市

『遊休不動産の再生による景観維持』

### 【参加委員】

委員長 高橋 伸典

副委員長 今村 芳彦

委員 佐藤 靖

谷 聡

市民福祉常任委員会の行政視察報告を申し上げます。

10月23日から24日までの2日間、中国地方4自治体、こども・子育て施策、高齢者施策、空家対策を中心に5項目の調査を行いました。

## ■ 相生市 「子育て応援施策「11の鍵」

兵庫県相生市では子育て応援施策「11の鍵」について視察しました。

相生市は子育て施策の全国的なトップランナーであり、特徴的な子育て応援施策を「11の鍵」と位置づけて展開しています。

平成17年に財政が逼迫し、健全化により27億6千万円の効果を発揮しました。その経験から移住定住促進を中長期的な戦略に位置付け、その一環としてこども・子育て施策を重点化するべく「子育て応援都市宣言」を行い、子育て世代の移住定住に向け取り組んでいます。結婚から住宅取得、妊娠出産に向けた施策や、18歳までの医療費と給食費の無償化をすることで、広く若者と子育て世帯の需要に対応した施策を展開しており、近隣都市からの移住者を呼び込むことに成功。過去3回の社会増を経験するなど成果が表れています。



子育て応援施策「11の鍵」を推進する相生市は  
子育て施策のトップランナー

同市のPR動画として制作した短編アニメでの紹介や、大企業向けに移住案内など、若者に的を絞った施策が特徴的で、事業の選択と集中、効果的な活用に向けた取り組みは大いに参考になりました。

## ■ 瀬戸内市 「すくすくチャイルドサポート事業について」

岡山県瀬戸内市では「すくすくチャイルドサポート事業」について視察しました。

こども家庭庁の「こどもまんなか」に賛同し、「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行っており、こども・子育てに関する13種類の施策群を「子育て楽しむならせとうち」と銘打って展開しています。

同事業のひとつである育児用ミルクや紙おむつ用品など、育児用品にかかる費用の一部を助成するチケットを発行する事業は約98%の利用率を誇る需要に適

合した施策であり、今後増額や適応拡大に向け検討が進んでいます。

また、不妊治療の助成や母子手帳アプリの活用、医療費の無料化に取り組むほか、特徴的な施策として、外遊びを支援する「移動遊び場・プレーカー」を実施しています。

公園の遊具が少ない事情を持つ地域、遊び場の少ない子育ての連携から発案されたひとつで、地域に向いて子どもの遊び場を提供する事業です。要請された場所や状況に合わせた遊び道具を車両に搭載し、大人も子どもと一緒に外遊びを楽しむことができます。また、子どもだけではなく地域の老人会へ出動するなど、幅広い対応が特徴的な事業となっており、年間200回以上の出動でおよそ5,000名が参加する実績を誇っています。



こどもまんなか応援サポーター宣言で13事業の  
施策を推進する瀬戸内市

子どもを中心に据えたPRも特徴的で、パンフレットも子どもが手に取りやすい工夫がされるなど「こどもまんなか」が徹底されています。本市でのこども・子育て支援を網羅的に紹介する手段や、地域の実情に即した柔軟な事業展開、庁内を横断した会議によって決定される体制づくりなどが課題であることを認識しました。

## ■ 矢掛町「認知症見守り事業」・「空き家対策と古民家再生」

岡山県矢掛町では「空き家対策と古民家再生」、「認知症見守り事業」について視察しました。

江戸時代の町並みが残る歴史と文化の街ですが、近年空き家・空き地の増加と共に、寄付や売却の問い合わせが増えたことを受け、町並みの景観保持と賑わいの創出が課題となりました。そのため、社会資本整備総合交付金（空き家再生等推進交付金）と過疎対策事業債を活用した事業を展開しています。

空き家の改修を伴う居住や新規創業への補助のほか、古民家の再生に向けた支援を行うことで、古民家の特徴を生かした温浴・宿泊施設が整備されたことや、近年誕生した道の駅では、物販を行わず展示を主体として観光客を誘導する仕組みが採用されるなど、特徴ある旧宿場町・矢掛町として再整備されていました。空家・古民家の再生と経済活性化の両立を狙える着眼点に敬服するばかりか、その実施にあたり構成されている、特定空き家認定に向けた空き家対策協議会とし



空き家対策協議会で特定空き家と認定し、略式代執行を遂行

て市長・弁護士・行政書士・建築士・関係部長・議長・関係常任委員会委員長がメンバーとして構成されることで、横断的かつ柔軟な対応を可能にしており、実績を残していることなどを学ぶことができました。

名寄市においても、中心市街地の活性化や景観の維持は大きな課題であり、大いに参考になる事例であります。

「認知症見守り事業」については、小型GPS装置を靴や鞆に装着し、徘徊を未然に防ぐべく必要物品に対する補助を行う事業であります。散歩に出かけた高齢者の発見に繋がった実績はあるものの、高額な購入費用や、靴の履き間違い等の課題があることから、新たな手法を検討しているそうです。

名寄市においても、高齢化にともなう認知症患者の増加は大きな地域課題であり、安心して暮らし続けられる名寄市づくりのため名寄市全体で見守りに関して考える必要があると感じました。



おばあちゃんが帰ってこない！  
警察に連絡！？ 消防団！？  
どうしたらいいの～！！



認知症見守り事業（小型GPS内臓靴購入補助）について研修

## ■ 尾道市「遊休不動産の再生による景観維持」

広島県尾道市では「遊休不動産の再生による景観維持」「空き家バンク事業」について視察しました。

尾道市ではこれまでに「尾道市空き家等対策計画」を策定し、危険性の高い空き家等の除去や空き家バンク制度の充実などを進めてきました。一定の成果はあったものの、空き家等総数は増加傾向にあることや、歴史的な建物が多く残されていることから景観にも配慮した空き家対策が求められることなどの課題も多々ありました。このことから、「歴史的風致維持向上計画」を策定し、尾道市独自の歴史や伝統を活かしたまちづくりを進めています。

空き家の活用に対する補助制度では、空き家バンク登録物件に居住するための

改修や、空き家家財道具等処分支援事業、中古住宅を購入または改修して定住する子育て世帯と若者夫婦世帯へ費用の2分の1を補助する子育て世帯等中古住宅取得支援事業と住宅金融支援機構の金利が安いフラット35と連携した取り組みを進めています。



空き家から市民の生命・財産を保護し、生活環境を保全するため空き家を利活用

また、国の交付金2分の1で特定空き家等及び不良空き家除去補助事業を行い、平成30年に特定空き家と認定された43軒中、31件が解体されました。

尾道市は古い歴史を持ち、文学や映画の舞台となっていて戦火を免れたことのある名所・旧跡が数多く残されています。それだけに市の景観に対する思い入れや懸念さは、明治以降に開拓された土地に住む私たちには想像を超えるものであると感じました。空き家問題については他の都市同様に年々深刻さが増していますが、行政と市民とが一体となって尾道市の景観を守る、という覚悟があり、そのための公費支出には寛容であるのではないか、というように推察しました。

本市においても、空き家バンクの活用に向け、改修・空き家家財道具等処分事業や、子育て世帯等中古住宅取得支援事業、特定空き家等及び不良空き家の除却にかかる補助事業をはじめ、国の交付金を活用した事業を推進すべく、空き家対協議会の設置の必要性を感じました。

今回の視察を通じ、名寄市が直面している人口減少、とりわけ子育て世代の減少は今後大きな問題になるであろうと強く危機感を抱いたところであります。

対策として子ども・子育て世代への直接的な支援のほか、居住環境の維持・向上を図るためにも、市街地の空き家問題は可及的速やかに解決すべき課題であると認識を新たにしたところであり、将来にわたり住み続けられる「まちづくり」を目指し、さらなる市民福祉の向上に向けて委員会が一丸となり取り組む所存であります。

以上、市民福祉常任委員会の視察報告といたします。